

# まんだら通信

第173号 (通巻205号)

平成22年(2010)11月 佛誕2576年

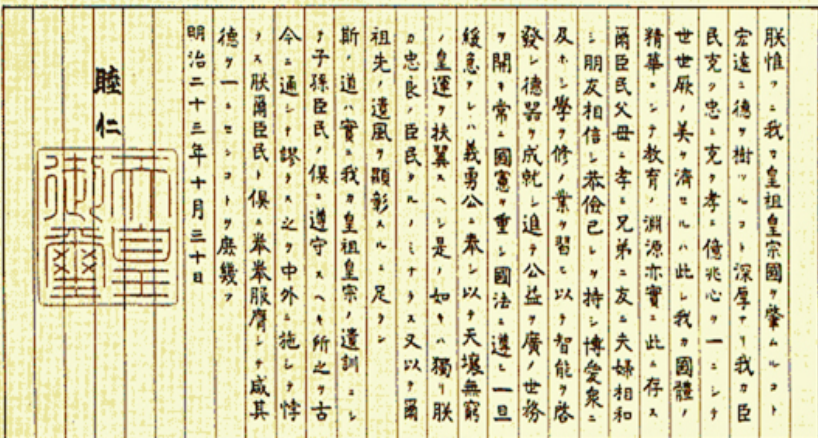
295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084  
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍渉  
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺  
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040  
<http://www.shiunji.org/>  
Mail post@shiunji.org

## 教育勅語百二十年

元且や紀元節など、四大節の祝日、国民学校の講堂に集まって「朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ」と、校長先生が独特の節をつけて重々しく読む勅語を、意味が分からないまま頭を下げて、早く終わることだけを思っただけで聞いていました。

この教育勅語が明治23年10月30日に発布されて、今年ちょうど120年だそうす。

当時、世界の帝国主義から国を守るため、必死になって力をつけることに努力していた日本は、西洋の技術や制度を取り入れ『近代化』を進める中で、それまでの日本人が徳としていた、「へりくだって他人を思いやる」とか「世の中ののための犠牲は立派なこと」というような日本古来の美徳を、ないがしろにする風潮があり



ました。

その頃はやった『舶来上等』という言葉が端的に表すように、「西洋のものほど良く、昔からのものは値打ちがないもの」ということですね。

その頃の政府の教育政策に、日本の徳育が軽く扱われていることを憂慮された明治天皇のお心に沿って、山形有朋内閣の法制局長官だった井上毅さんが中心になり草案を作ったのだそうす。

インターネットで見つけた、現代語の要約は次の通りです。

- 一 親に孝養をつくそう (孝行)
- 二 兄弟姉妹は仲良くしよう (友愛)
- 三 夫婦はいつも仲むつまじくしよう (夫婦の和)
- 四 友だちはお互いに信じあつて付き合おう (朋友の信)
- 五 自分の言動をつつしもう (謙遜)
- 六 広く全ての人に愛の手をさしのべよう (博愛)
- 七 勉学に励み職業を身につけよう (修業習志)
- 八 知識を養い才能を伸ばそう (知能啓発)
- 九 人格の向上につとめよう (徳器成就)
- 十 広く世の人々や社会のためになる仕事に励もう (公益世務)
- 十一 法律や規則を守り社会の秩序に従おう (遵法)
- 十二 正しい勇氣をもつて国のため真心を尽くそう (義勇)

この勅語も他のもの同様、軍国主義の塊であるという理由から、戦後すぐに排除されました。でも、読んでお分かりの通り、現在の私たちもこのように心がければ、世の中がもっと住みよくなるだろうということばかりです。どこにも、軍国主義や天皇絶対主義などありません。

而も最後の二行に、「私も国民と一緒に努力

して、このような人間になるよう心から思う」と仰せになっています。このようなお心は、それより前、慶応四年に発布された、明治政府の基本方針を示す『五箇条の御誓文』にも「私は自らに誓って国のあり方を定めた。国民もまたこの趣旨を理解して努めるように」と仰せになりました。

昭和天皇が、こともなげに「わが家の家風だから」と、ユーモア交じりに仰せになった「国民とともにある」日本の皇室のあり方は、私たち日本人は当たり前と思っていることですが、聖徳太子の十七条憲法を持ち出すまでもなく、人間の歴史はじまって以来、他の国にはありません。

では、外国人はこの教育勅語をどう見ていたのでしょうか。

当時アメリカに行っていた、伊藤博文の側近金子堅太郎は、当時の超大国ロシアを打ち負かすのを見たアメリカ人たちに「日本の教育はどのようなものか」と聞かれて、この勅語の話をしたところ、大いに納得し感銘を与えたといふことす。

十月二十九日の産経新聞『正論』欄で、国学院大学教授大原泰勇さんが書いていますが、二十年ほど前、進学校として有名な栄光学園の園長を務めたドイツ人、グスタフ・フォス神父は「日本の憲法前文は、教育勅語のような、日本の歴史や伝統を踏まえたものにすべきだ」と指摘され、ビックリしたそうす。

外国人の方が先入観なしで読むので、ものの価値をありのままに、正しく見ることが出来るのです。

今ごろ、カビの生えた教育勅語など持ち出して、和尚さん、遂に頭の配線がおかしくなってきたと思う人もあるでしょうね。

マスコミは寄ってたかって、人柄も景気も格差も、あれもこれも日本はダメになったと言いつつ、確かに、そういうところもあると思えますが、先月号で紹介した『笑って泣いて・・・』でお分かりのように「人さまの喜ぶ姿が何より好き」という日本人の割合は世界の中で一番多いのです。

日本はまだまだ、世界で一番優しい人の住む国なのだと思っています。

◆このまんだら通信は、毎月10日発行です。

今月は6日から15日までスリランカ行きの予定ですので、お休みしますと先月号で書きました。

でも、ずっと休まずに続けてきたのだから、何とか出来ればと思い直して、前倒して書き始めました。区長さんへは、いつも通りの日にちにお届けすることになると思っています。

◆そのスリランカ行き。いよいよ、今週土曜日午後1時半成田空港から出発です。同行の皆さんそれぞれ、成田山幼稚園や『あそか基金』の子どもたちの喜ぶ様子を想像しながら、鉛筆などの土産を用意したようです。

私は、あちらの幼稚園で使う草刈り機とノート型パソコンを、館山のかたにた村にお勤めの佐々木さんは、電子オルガンとピアノカを持ってゆくとのことです。

ただ、テロリストを警戒する航空会社が、草刈り機に文句をつけるかも知れないあと、そのことだけが少し心配ですが。

◆秋になっても暑さが続いた今年。程よい陽気になったと喜んでいたら、先週は急に寒くなり真冬の気温でした。お陰で少し鼻風邪気味に。

◆今月の野草…といっても草ではなく木ですが、ハマゴウ【くまつばら科ニンジンボク属】です。

太平洋と、それを囲む国や島々に広く分布する海岸植物と、原色牧野植物大図鑑にあります。

背丈は30センチほど。砂地を横に這って伸びてゆきますから、砂の移動を止める役割があります。

白浜では、根本海岸に多いです。

海辺の家では昔、刈り取って蚊帳に使用しましたが、採りに行くのは子どもの役だったけれど、間違っアシナガバチの巣を壊して、刺されて痛かったよ、と教えてもらったことがあります。2010.10.31 龍渉



## 余滴

## につぼん人情小噺

### 第二十八話 向上心

えー、人間、なにをやるにも努力というものが大切です。

私が小学生の時には、クラスでいろいろなことに関わった生徒に、先生が「努力賞」という賞状をくれたんですね。

普通の賞状の半分ぐらいの小さな紙でしたが、賞状なんか縁のなかった私は、とてもうれしかった覚えがあります。

あとで聞いたら、これはすべて担任の先生のアイデア。一学期に互枚。ですから、一年間に十五枚。三年間、同じクラスでしたから四十五枚の「努力賞」があつて、一回もらった人はもらえなかつたので、結局は、クラス全員がもらったことになるようになっていたそうです。いまでも覚えてくるくらいですから、子供はこういうことが心に残るんですね。心の温かい先生だつたと思います。

私も素直だつたんですねえ、「努力賞をもらったよ」と家に飛んで帰って、大きな声で叫んだんですから。親も「よかつたねえ、よくがんばつたねえ」とほめてくれたりしましてね。一生懸命努力をする心を、「向上心」と言います。

今日は、そうした「向上心」に関するお話をしたいと思います……。

皆さん、殿山泰司さんという俳優を覚えていらっしゃるでしょうか。自「三文役者」と言いながら、いろいろな役で脇をしつかりと固めていたユニークな役者さんでした。もうお亡くなりになりましたが、その人生は波乱万丈だつたようです。

子供の頃に両親が離婚いたしました。殿山さんはお父さんといっしょに東京に出てきます。でも、仕事がありませんから、愛人に銀座でおでん屋さんをさせるんですね。

おでん屋の屋号は、お父さんの愛人太田コウさんの名前から「お多幸」とつけたようですが、この店は代が変わっても大変にはやつています。

二十一歳で新築地劇団に入り、俳優修業をします。ところが、二十七歳で応召、中国戦線を転戦します。復員してしばらくした昭和二十五年、吉村公三郎、新藤兼人といった先輩たちに見出され、以後、殿山さんはどんな役でもこなします。なにしろ、生涯出演した映画は三百本を超えるというから、すごいですよ。

はげ頭にぎよる目。その特異な容貌は大変に重宝がられ、つねに忙しかつたようです。

しかし、さすがにそんな殿山さんでも、六十歳を超えたあたりから、仕事の数がみるみる減つてきました。

日本の映画産業が下降線をたどつたこともありますが、若い監督にはこの俳優を使いこなせなかつたのかも知れません。

俳優にとつて、一番困るのは、仕事がないことです。

殿山さん、愛人と暮らしながら、酒を食らい、おいしい料理を食べ、連日の不摂生が続きます。当然、体もボロボロになつてくる。「殿山は、もう使えない」。そんな噂も次第に広まりますから、ますます自堕落な生活に。

そんなある日、若い頃から憧れた女優、乙羽信子さんがこう言つて、殿山さんを励ましてくれたそうです。

「あなたには、昔から向上心がないから、仕事だんだん減つていくのよ。つらい時こそ、人の倍、努力しないと」

殿山さんはおもしろくなかつた。「けつ、何か向上心だよ。そんな優等生みたいなこと、俺には無理だ。冗談じゃねえ」

いつの間にか、殿山さんは七十歳を超えました。その頃から、それまで不摂生に耐

えてきた体がとうとう悲鳴をあげはじめたのです。

心配した乙羽さんは、殿山さんに病院を紹介しました。

検査をしてくれた先生の話によれば、すでに肝臓ガンの末期。余命いくばくもないとのことでした。乙羽さんは、そのことを本人には一切言わないことにしました。

そんな殿山さんにめずらしく、立て続けに三本、映画の仕事の電話が入りました。二本は田舎の葬式での坊主役、もちろん、ワンカットですが、殿山さんは喜んで出かけました。三本目はやはり田舎の警防団長の役。戦争に行つた夫の帰りを待つ妻が、山の畑で農作業をしているところに、戦死の公報を届ける役でした。

その日の午前中、乙羽さんは偶然、病院で殿山さんと会い、驚きました。殿山さんのおなか妊娠八か月のように大きくふくらんでいたからです。

「これから、房総半島にロケに行くんだ」殿山さんはうれしそうにそう言つたそうです。

撮影がはじまりました。殿山さんは麓から中腹の畑まで戦死の公報を持つて上がつていこうとするのですが、苦しくて、テストのたびにダウンしてしまします。見かねた監督が上から声をかけます。

「殿山さん、上がつてこなくていいですよ。苦しくなつたら、止まつて下から『奥さん、旦那が戦死したよ』と声をかけてください。こつちから下りていきます」

そして、いよいよ本番。殿山さんは必死で山を駆け上がります。心臓が胸から飛び出しそうです。それでも、殿山さんの足は止まりません。ヨタヨタしながらも、一歩一歩山道を進んでいきます。ようやく、畑に。殿山さんは顔面蒼白。息も満足にできません。

「カット！ これで殿山さんの出番は全部終わりました。ご苦労さまでした」

「ありがとうございます」

殿山さんは、深々と監督やスタッフに頭を下げました。それから、やつとの思いで家に戻り、「疲れた」と言つて床につき、眠つたまま、二週間後に亡くなりました。殿山さんの遺体にすがりついた乙羽さんは、その時、こう言つたそうです。

「最後のロケの話、聞きました。立派よ、あなたにも、向上心があつたわよ」

今から二十年前、平成元年四月三十日の話です。



スリランカ成田山幼稚園での記念式典。  
異国で仰ぐ日の丸と、君が代の演奏は、何故か胸が熱くなります。  
(去年11月28日)